



江北のまちづくり

～あなたの声をきかせてください～



第1章	江北エリアデザイン計画について P02
第2章	江北エリアの現状分析 P03
第3章	江北エリアのまちづくり	
	第1節 東京女子医科大学東医療センターを核としたまちづくり P05
	第2節 4つの視点からの取組み P06
	第3節 江北エリアの整備方針（案） P10
第4章	目標の実現に向けて	
	第1節 拠点開発・基盤整備目標年次 P11
	第2節 成果指標 -まちづくりへの挑戦- P12

エリアデザインとは

- 足立区が現在区内7箇所で進めている「エリアデザイン」とは、そのエリアが持つ魅力や目指すべき将来像を内外に発信するとともに、民間による区有地などの活用を図ることで、地域の活性化や区のイメージアップにつなげようという取り組みです。

江北エリアの未来

- 江北エリアには、区民の悲願であった大学病院の誘致が実現します。この機会をとらえて、エリア内に創出される複数の大規模用地を効果的に活用し、コンセプトにあった施設の整備を進めるとともに、それらを活かした区施策も併せて展開するなど、戦略的にまちづくりを進めていきます。
- 「江北エリアデザイン計画」の策定にあたっては、区の基本計画や都市計画マスタープラン等を土台としつつ、エリアの特徴を示す統計データを収集するとともに、地域にお住まいの方々に対するアンケート調査を実施しました。両者の内容を比較・分析することで、現在の江北エリアが持つ「強み」と「弱み（課題）」を把握し、まちの将来像＝エリアデザインを描きました。

足立区がエリアデザインを推進するエリア

江北エリア

- ・区内初の大学病院開設（2021年度予定）
- ・エリア内に多くの大規模用地創出



竹の塚エリア

- ・鉄道高架化の工事が進行中
- ・西口駅前広場や駅前道路などの基盤整備に着手

花畑エリア

- ・文教大学進出が決定。開設時期は2021年
- ・大型ショッピングモールも開業（2014年）
- ・河川、公園などの周辺環境の再整備も計画



六町エリア

- ・TX 六町駅の駅前に3,600㎡の区有地を所有
- ・隣接する駅前広場や公園と一体的な活用が可能に

綾瀬・北綾瀬エリア

- ・駅前顔づくりを検討
- ・こども家庭支援センター跡地構想の再構築
- ・北綾瀬駅改良工事が進行中

西新井・梅島エリア

- ・都営住宅跡地の有効活用
- ・駅東西を結ぶ連絡通路計画

千住エリア

- ・西口駅前の再開発、5つの大学誘致でまちの魅力が向上
- ・働く女性が住みたいまちランキングも上位



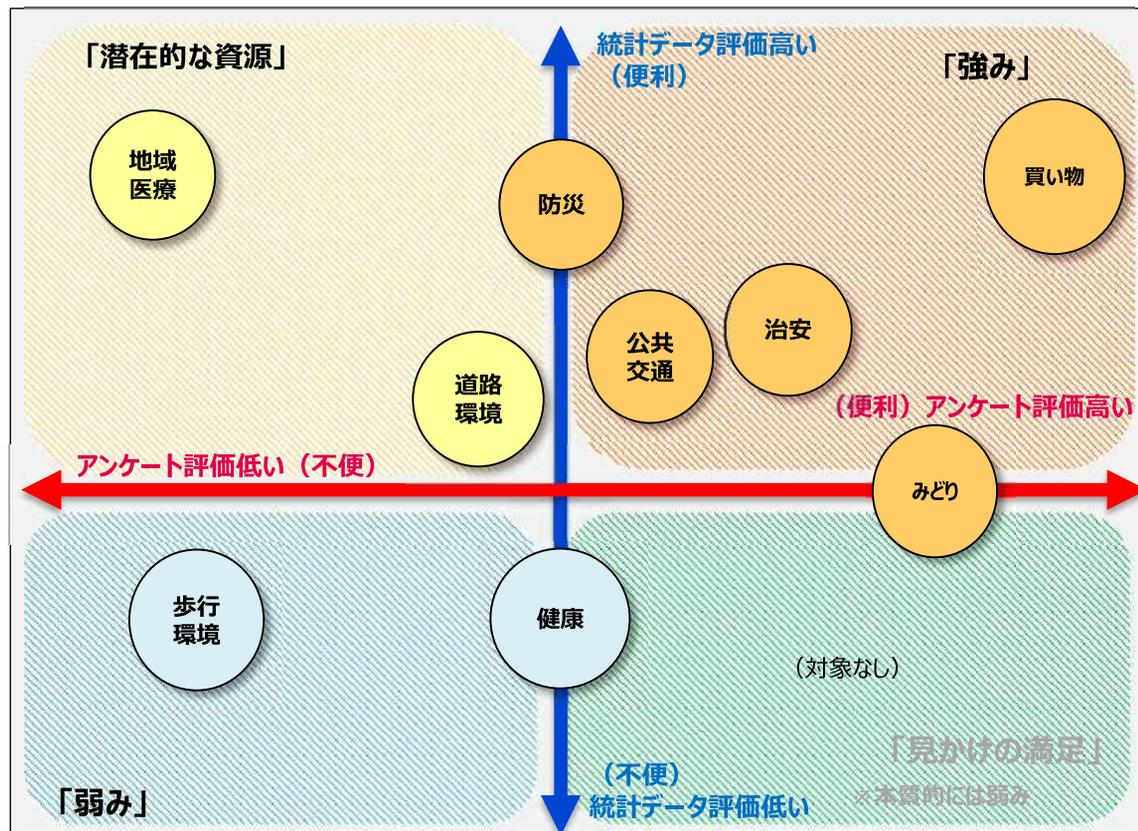
江北エリアにおける統計データ及びアンケート調査による分析

- 将来の方向性を検討するため、以下の流れで江北エリアの現状分析を行いました。

ステップ1 まちづくりに関連する各種項目について、統計データの収集や住民へのアンケート調査を実施し、**強み**、**弱み**、**潜在的な資源**、**見かけの満足**の4つに分類しました（統計データと住民へのアンケート調査の詳細については、資料編に掲載）。

ステップ2 4つに分類した各種項目について、現状を把握・分析し、今後の方向性を整理しました。

ステップ1



【4つの分類の説明】

「強み」 統計データ：高 アンケート：高

- ・更に伸ばすことでまちの魅力を高めます。

「潜在的な資源」 統計データ：高 アンケート：低

- ・統計データとアンケート調査のミスマッチについて、原因把握および課題解決を図る必要があります。

「見かけの満足」 統計データ：低 アンケート：高

- ・統計データ上の改善を図り、真の強みに変えることが必要です。

「弱み」 統計データ：低 アンケート：低

- ・まちの弱みを克服し、不便や不満を感じる事柄を少なくすることで、評価の底上げを図ります。

地域医療「潜在的な資源」

現状

統計 江北エリアの住民一人あたりの病床数・診療所数は区平均を上回っています。

アンケート 江北エリアの地域医療については、全世代で不満に感じています。

分析

江北エリアにある診療科目が、住民のニーズに合わず、課題であると分析できます。

方向性

保健センターや東京女子医科大学との連携により、ニーズに合った地域医療環境を整備する必要があります。

買い物「強み」

現状

統計 江北エリアの住民一人に対する年間商品販売額、売り場面積は、区平均を上回っています。

アンケート 全世代で買い物が便利と感じています。地域別では特に北ブロックが便利と感じています。

分析

強みと言えます。

方向性

大学病院の移転により昼間人口が増加すると推測されるため、商業施設等が出店しやすい環境を整備する必要があります。

みどり「強み」

現状

統計 江北エリアの緑被率及び公園面積などのみどりの多さは、区平均レベルです。

アンケート 高齢者や都営・区営住宅の居住者は、みどり・公園が多いと感じています。

分析

公共住宅以外にお住まいの方や若い世代の方は、緑の実感が薄い実態があります。

方向性

緑のネットワーク化を進めるとともに、緑を実感できていない人が公園などを訪れたい工夫が必要です。

治安「強み」

現状

統計 江北エリア全体では、刑法犯認知件数、交通事故数ともに区平均以下です。

アンケート 江北エリア全体で、体感治安は良いと感じています。

分析

東ブロック及び北ブロックでは、刑法犯認知件数が区平均を上回っています。

方向性

東ブロック及び北ブロックを中心に、対策を講じ、エリア全体の防犯機能を向上させる必要があります。

健康「弱み」

現状

統計 子どもは、むし歯・肥満などのデータが、大人は肥満割合が、区平均より悪い結果となっています。

分析

子どもの健康改善が課題です。

方向性

保健センター・幼保小中では、ベジタベ事業のほか、健康増進に向け、エリア独自事業の展開も必要です。

歩行環境「弱み」

現状

統計 歩道のある道路割合（歩道率）は、区平均を大きく下回ります。

アンケート 北ブロック以外は歩行環境に不満を感じています。

分析

江北バス通りにガードレールや縁石が無く、歩車道が分離されていないことがアンケートで低評価に繋がった原因と推察されます。地域の大きな課題です。

方向性

新たな道路整備や道路拡幅により、安全な歩行空間の確保が必要です。

防災「強み」

強みをさらに伸ばすために、創出用地に防災機能を加えていきます。

公共交通「強み」

大学病院を中心としたバス網の整備が必要です。また、日舎ライナーの混雑緩和が課題です。

道路環境「潜在的な資源」

即時の解決は困難ですが、東西をつなぐ主要道路の整備で一定程度の改善が期待できます。

第1節 東京女子医科大学東医療センターを核としたまちづくり

～東京女子医科大学東医療センター移転が大きなチャンス～

江北エリアの最大の強みは、東京女子医科大学東医療センターの移転に他なりません。

これまで区の医療分野での懸案であった「救急医療の確保」「災害時医療拠点の確保」「周産期医療の充実」「小児医療体制の整備促進」「がん診療機能の充実」などに大きな前進が期待されることはもちろん、統計データから明らかのように、江北エリアの弱みである地域住民の健康状態の改善や健康増進に向けて取り組む絶好の機会といえます。

そこで本エリアデザインを中心となるテーマを「健康」とし、「住んでいるだけで自ずとからだもこころも健康になるまちづくり」を進めるための施策を、「病気予防」「体力づくり」「安心」「にぎわい」の4つに整理します。

江北エリアが目指す「健康」の3つの要素



「健康」をテーマにまちづくりを進める4つの視点

病気予防	▶	<ul style="list-style-type: none"> ・好ましい食習慣の定着 ・医療、介護、保健施設の連携
体力づくり	▶	<ul style="list-style-type: none"> ・健康維持、体力増進 ・スポーツをする機会の充実
あんしん	▶	<ul style="list-style-type: none"> ・治安の向上 ・防災力の向上 ・地域ネットワークの促進
にぎわい	▶	<ul style="list-style-type: none"> ・にぎわいの創出・誘導 ・大学病院周辺の基盤整備

第2節 4つの視点からの取り組み

1 住んでいるだけで自ずと健康になるまちづくり（予防の視点）

からだもこころも健康になるまちづくり！

病気を重症化させない予防対策や、趣味や地域活動に参加しやすい環境づくりにより、健康寿命の延伸を図ります。

具体的な取り組み

Action 1

「野菜を食べよう、野菜から食べよう」の習慣化

- 野菜や朝食の摂取など、食生活を改善する事業を強力に展開します。

Action 2

支えあいや活動の場づくり

- 子育て世代や高齢者の支えあいの場づくりで不安のない毎日を過ごせます。
- サークル活動やボランティア活動など、趣味や地域活動の場を充実させます。

Action 3

医療・介護の連携施設の整備

- 区内の医療・介護事業者の連携を促進する拠点を整備します。

Action 4

母子保健事業の強化・充実

- 江北保健センターを更新し、東京女子医科大学の周産期医療と育児相談を連携し、出産・育児環境強化を検討します。

食習慣が身につけていない子どもの割合が高い！



2 身近なところで気軽に運動できるまちづくり（体力づくりの視点）

(1) 歩行ネットワークを整備し、歩きたくなる環境をつくっていく！

おしべ通りを「憩い・くつろぎ軸」として設定し、若年から高齢者まで、つい歩きたくなるような環境を整備します。

(2) スポーツ施設の充実により、体を動かす環境を整備！

テニスコートや野球場など、身近に体を動かせる環境をさらに充実させます。

具体的な取り組み

環七より南では歩行環境に関する区民評価が低い。

Action 1

つい歩きたくなる環境の整備

- 現在の散歩コースである神領堀や江北北部緑道などを新たな緑でつなぎ、ネットワークを広げます。今よりも、楽しく、長く、歩きたくなる環境を提供します。

Action 2

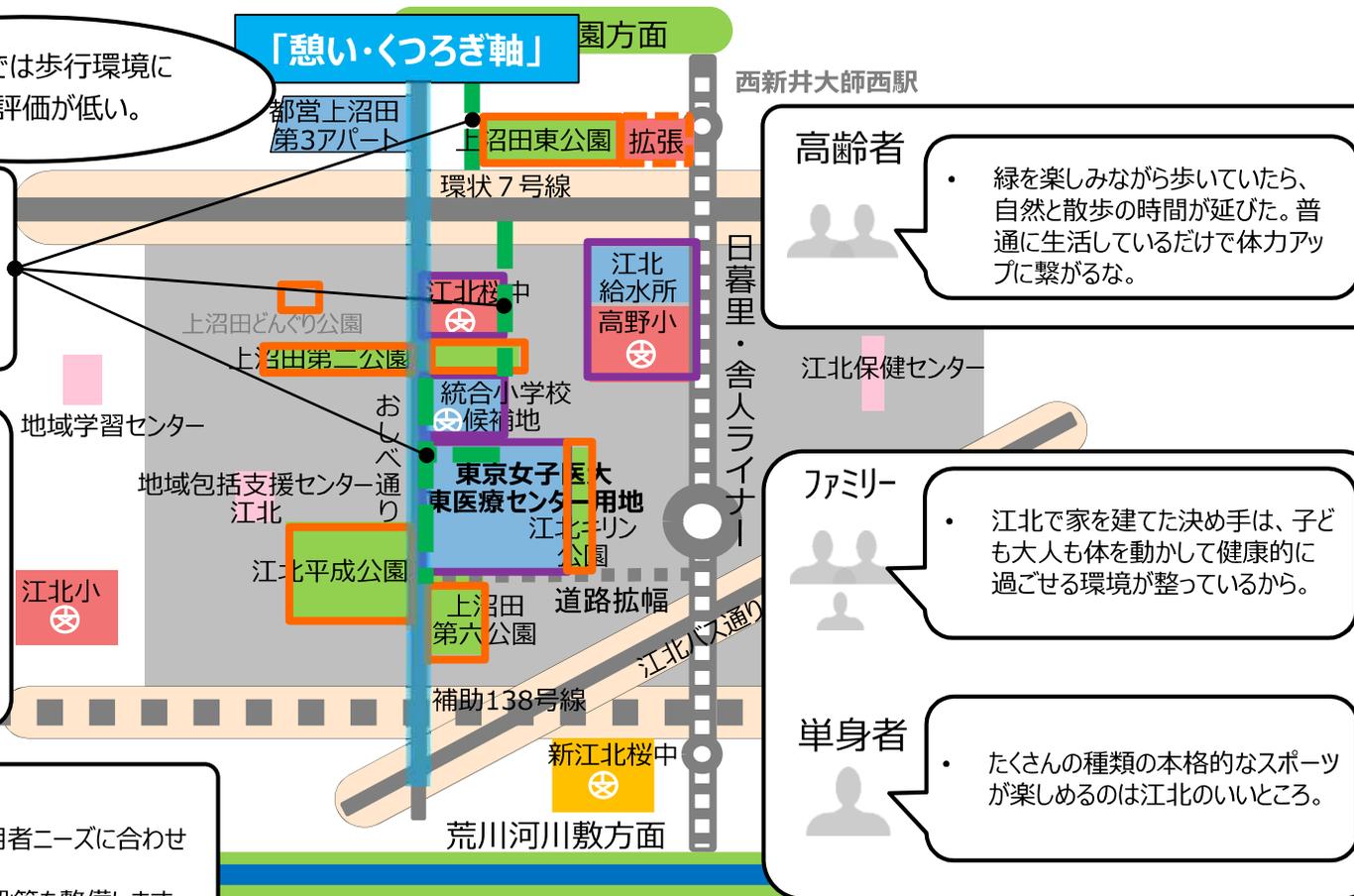
上沼田東公園改修と高野小学校跡地によるスポーツゾーンの整備

- 上沼田東公園のテニスコートと野球場を使いやすく再整備します。
- 高野小学校跡地にはサッカーなどさまざまなスポーツが楽しめる多目的広場の整備を検討します。

Action 3

訪れたい公園の整備

- 年少層、ファミリー層、高齢者などの利用者ニーズに合わせた公園を整備します。
- 人が集い、交流できる機能や賑わい施設等を整備します。



高齢者

・ 緑を楽しみながら歩いていたら、自然と散歩の時間が延びた。普通に生活しているだけで体力アップに繋がるな。

ファミリー

・ 江北で家を建てた決め手は、子ども大人も体を動かして健康的に過ごせる環境が整っているから。

単身者

・ たくさんの種類の本格的なスポーツが楽しめるのは江北のいいところ。

3 安全・安心なまちづくり（あんしんの視点）

(1) 治安の向上でさらに安心できるまちへ！

治安が良いのが江北エリアの強み。この強みをさらに磨くため、特に日暮里・舎人ライナー東側の刑法犯認知件数を減らし、エリア全体の体感治安向上を目指します。

(2) エリア全体の防災力向上！

創出用地、統合小学校などの新施設には、災害時対応機能を整備するとともに、江北給水所や公園を活用することで、いざというときの不安を緩和できるようまちづくりを進めます。

具体的な取り組み

Action 1

防犯力強化による安心の提供

- 東ブロックを中心に防犯カメラなど防犯機能の充実、見回り強化、夜間の道路の明るさ確保などにより、犯罪抑止力を高めます。

Action 2

災害時避難所機能向上

- 統合小学校及び高野小跡の新施設建設により、小学校統合以前よりも避難所収容人数を増やします。また、避難所の施設機能も高いものとします。

Action 3

防災機能を持った公園へ整備

- 日ごろから防災設備に触れる機会を設けることで、住民の災害対応力の向上を図ります。

Action 4

東京女子医科大学東医療センター

- 救急医療の確保、災害時医療の拠点、周産期機能の充実などにより安心が広がります。
- 病院周辺では、道路拡幅により、交通の安全を高めるとともに無電柱化も検討していきます。

東ブロックの治安については課題！



高齢者

- とうとう足立区にも大学病院が！身近に高度医療機関があると安心するわ。
- 電柱がなく、歩道も広がり安心して歩けるな。

ファミリー

- 防犯カメラがたくさんあると子どもの外出時の不安が少なくなるわね。
- 安心できる避難所があって、災害時に心強い機能がそろうと感ずるな。

単身者

- 夜道が明るくなれば、帰宅が遅くなっても安心ね。
- 江北って思っていたよりずっと治安がいいなあ。

4 にぎわいづくり（にぎわいの視点）

（1）にぎわいの創出・誘導！

日暮里・舎人ライナー沿線を「にぎわい軸」として設定し、日常生活における買い物や飲食などに適した商業施設等を誘導して、まちのにぎわいにつなげます。

（2）大学病院を中心とした基盤整備！

大学病院の移転に伴い、周辺の交通環境整備やバス交通の誘導を着実に進めるとともに、中・長期的には、主要な生活道路の環境整備を進めます。

具体的な取り組み

Action 1

用途地域の見直しを図り 地域の活性化・利便性を向上

- 日暮里・舎人ライナー沿線のにぎわいとなる商業施設等を誘導するため、必要な用途地域の見直しを図ります。

Action 2

大学病院移転に伴う バス交通の誘導

- 交通需要増に対し、バス転回場を整備してバス交通の誘導を図ること、利便性を高めます。

Action 3

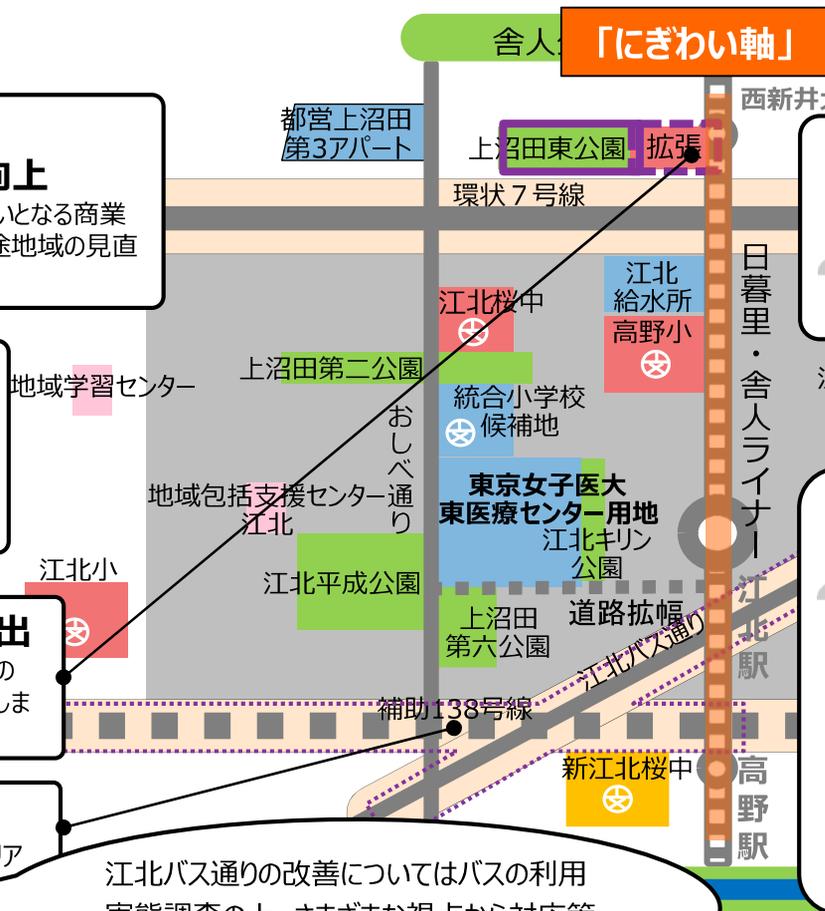
公園との連携でにぎわい創出

- 駅近くの立地を活かし、隣接公園との相乗効果を期待できる機能を検討します。

Action 4

補助138号線の早期開通

- 補助138号線を早期整備し、エリア内東西の移動を容易にします。



高齢者

- バス路線が充実して外出の機会が増えそうだわ。

ファミリー

- 飲食店が増えて家族で出かける機会が増えたわ。
- 新しい道路ができて東西方向の移動が便利になったな。

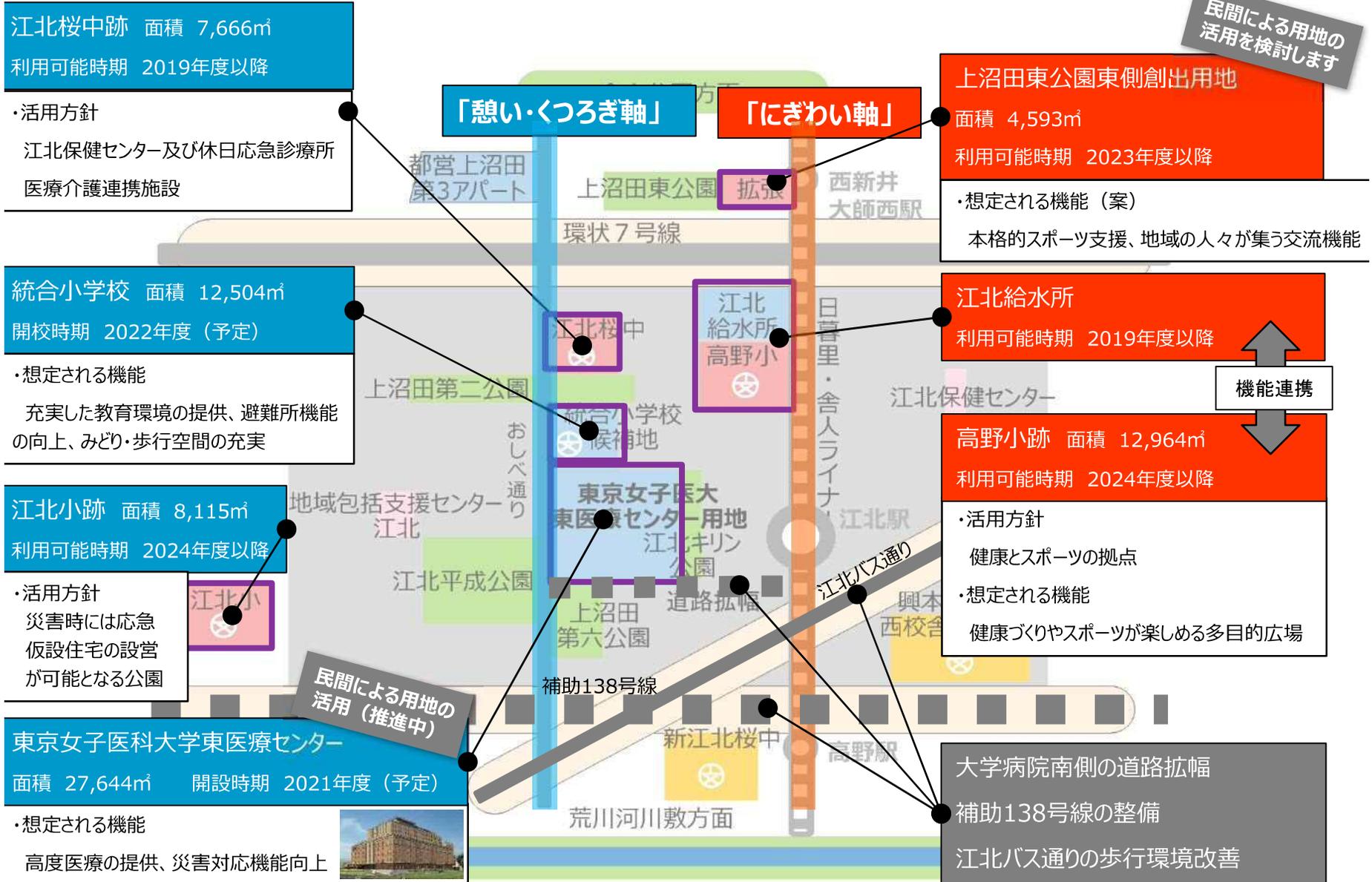
単身者

- 以前と比べて日暮里・舎人ライナー沿線がにぎやかになってきたな。
- 大学病院ができて若い人が増えたな。

江北バス通りの改善についてはバスの利用実態調査の上、さまざまな視点から対応策を東京都と協議していきます。

第3節 江北エリアの整備方針（案）

■ 「憩い・くつろぎ軸」と「にぎわい軸」上の創出用地ごとに、主な活用イメージを示します。



第1節 拠点開発・基盤整備目標年次

- 目標の実現に向けた拠点開発・道路・公園整備目標スケジュールを下表のとおり設定します。

整備対象拠点	整備方針	スケジュール
東京女子医大移転	土地貸与予定	2019年春着工 → 2021年度開院
江北小跡	防災機能を持つ公園	2021年度解体設計 → 2022年度解体工事 → 2024年度オープン
江北桜中跡	江北保健センター及び 休日応急診療所 医療介護連携施設	平成30年度中に方針決定
統合小学校	統合小学校	2020年度着工 → 2022年度開校
高野小跡	多目的広場 健康とスポーツの拠点	2021年度解体設計 → 2022年度解体工事 → 2024年度オープン
上沼田東公園	スポーツ機能向上 (旧上沼田小跡を含む)	2019年度基本設計 → 2020年度実施設計 → 2021年度着工 → 2023年度オープン
上沼田東公園 東側創出用地	本格的スポーツ支援 地域交流機能	2021年度方針決定 → (民間活用の場合) 2022年度公募 → 2023年度オープン
東京女子医大周辺 無電柱化	無電柱化に取り組む	実施の可否については、平成30年度中に決定
東京女子医大 南側道路拡幅	歩道の拡幅及び道路 改良	随時
上沼田第六公園	交流・にぎわい機能 バス転回場整備	2019年度設計 → 2020年度工事 → 2021年度オープン
補助138号線	東西の移動円滑化 交流・にぎわい機能	早期整備着手

第2節 成果指標 – まちづくりへの挑戦 –

健康をテーマにした「江北エリア独自(表1)」のものと「全エリア共通(表2)」の2種類の成果指標を導入します。表1は区平均より良い状態となることを目標とし、表2は来年度、数値取得後に目標を設定していきます。

表1 江北エリア独自の成果指標

ライフステージ	成果指標 ※ 1	区平均	江北平均
0～15歳の年少層	むし歯あり	45.5%	50.0%
	朝食を毎日食べる習慣がない	6.7%	9.4%
	肥満傾向の割合	6.0%	10.1%
15歳以上の年齢層	野菜摂取量(350g以上/日)【できている】	10.1%	2019年度の世論調査にて、成果指標ごとの数値を取得するとともに目標を設定する
	野菜から食べる割合【食べている】	66.3%	
	日常的運動はしていない【していない】	41.0%	
高齢者層	健康寿命	男性 77.5歳 女性 82.3歳	-
	介護認定率	20.2%	

※1 成果指標は足立区政に関する世論調査(平成30年)、子どもの生活実態調査(平成27、28年)、足立区糖尿病アクションプラン、第7期介護保険事業計画による。

表2 全エリア共通の成果指標

成果指標 ※ 2		区平均	江北平均
買い物(日用品)	普段の買い物が便利である【そう思う(計)】	77.5%	2019年度の世論調査にて、成果指標ごとの数値を取得するとともに目標を設定する
みどり・公園	よく行く、または行きたい公園がある【そう思う(計)】	48.0%	
治安	居住地域の治安状況【良い(計)】	54.3%	
安心	快適で安全なまちづくりが進められている【そう思う(計)】	50.8%	
公共交通	通勤や通学などの交通の便がよい【そう思う(計)】	67.7%	
地域医療	安心して受診できる医療機関が身近にある【あてはまる】	68.8%	

※2 成果指標は、足立区政に関する世論調査(平成30年)による。

江北エリアデザイン計画

平成30年11月

足立区エリアデザイン推進本部

事務局:足立区 政策経営部 エリアデザイン推進室
エリアデザイン計画担当課

東京都足立区中央本町1-17-1

電話 03-3880-5812(直通)

FAX 03-3880-5610

URL:<http://www.city.adachi.tokyo.jp/>